

7. 観光地内の巡回バスによる観光客の移動利便性の向上（石川県山中町）

～ポイント～

観光客と住民との混乗の回避

生活路線の運行ルートと観光客専用の巡回バスルートで路線が重なる区間があるが、混乗を避け、観光気分を損なわないような仕組みとしている。路線バスと比較して料金が安い巡回バスに住民が乗ることができない仕組みによって、バス事業の圧迫にはならないようにしている。

旅館組合員とボランティアによるバスガイド

巡回バスを運行する旅館協同組合の構成員および住民ボランティアが、全てのバスにガイドとして乗り込み、町の紹介をしている。旅行の目的は地元住民との触れ合いにあり、地域全体で観光客をもてなしている。

まちづくりとの一体化

地域の特色を醸し出すまちづくりと一体となって、巡回バスの停留所を設置しており、交通とまちづくりが相乗的に効果を生み出している。

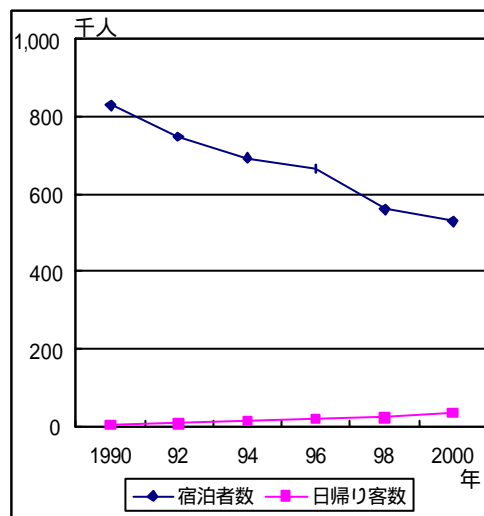
1) 山中町の概要

山中町（山中温泉）は、石川県南部に位置しており、加賀温泉郷として、山代温泉、片山津温泉、粟津温泉とともに、関西地域の人々を中心に親しまれてきた。しかし、バブル経済後のわが国経済の低迷が観光に与えた影響は大きく、片山津温泉や山代温泉と比較するとまだ宿泊客の減少は少ないものの、2001年度の宿泊者数は1992年度の約65%にまで落ち込んでいる。

「山中温泉」のほか「鶴仙溪」等自然資源が観光地としての山中町の魅力を高めているほか、伝統工芸として名高い「山中漆器（塗）」や「九谷焼」、民謡「山中節」などによって、全国的にも知名度が高い。

大阪から特急列車で2時間10分～20分、金沢から約30分で加賀温泉駅に到達し、加賀温泉駅からバスで約20分の位置に山中温泉はある。金沢方面からは、2000（平成12）年に開設した四十九院トンネルの整備によって、冬の降雪期間中における車の走行が安全になった。

山中町の宿泊客と日帰り客の推移



出所) 山中町資料より作成

2) 交通施策の概要

観光客のみを対象とした町内観光資源を周遊する巡回バスの運行

2000年4月から山中温泉の宿泊客、および日帰り観光客には無料で、他の観光地からの日帰り観光客には、同町出身である料理家の道場六三郎書の日本手ぬぐいを購入(300円)してもらい、町内の観光資源を巡回するバス「いい花お散歩号」を1日10本運行(1周35分)している。

巡回バスは、路線バスとほぼ同じ路線を走っているが、専ら観光客用であるため、住民は巡回バスには乗ることはできない。山中温泉の宿泊者には宿泊した旅館が巡回バス利用券を無料で発行し、観光客と住民とを区別している。

巡回バス「やまなかいいい花お散歩号」

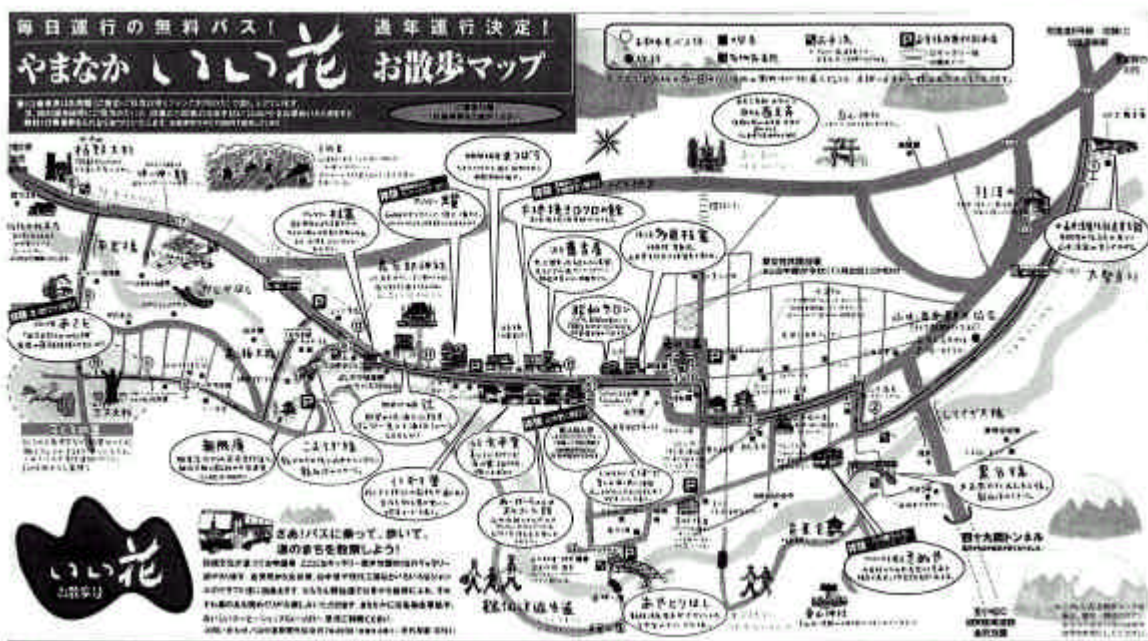


< 施策実施の経緯 >

1990年代当時、宿泊客は食事、温泉浴、土産物購入等全ての観光活動を大規模化した旅館内で済ませてしまうため、街なかに出かける機会がほとんどなく、中心商店街の活気がなくなってしまった。また、あわせて、工業団地の造成により、従来は商店街の中で営んでいた山中町固有の漆器産業が職住分離によって、商店街の衰退を招いてしまった。

こうした状況のもと、1990(平成2)年にはゆけむり健康村「ゆーゆー館」、91年にはあやとりはし、92年には男性用共同浴場「菊の湯」を整備し、その後、山中漆器や九谷焼などのギャラリーや山中節の体験施設などを整備するなど、山中町の文化・工芸・歴史を「いい花」とみため、商店街の活性化事業に取り組み、観光客に町を散策してもらうことを考えた。

巡回バス「やまなかいいい花お散歩号」の運行ルート



備考) 丸数字は巡回バス「やまなかいいい花お散歩号」のバス出所)やまなかいいい花お散歩マップ

しかし、観光資源が点在しているため、歩いて回ってもらうことはたいへんなので、山中温泉の宿泊客及び日帰り客と手ぬぐい購入者に限定して利用できる巡回バスを運行することとした。車による来訪者が多いため、街なかの観光施設に寄ってもらうためには、駐車場を整備する必要があったが、そのスペースを確保することも困難であるため、他市の事例を参考に巡回バスを運行することとした。なお、地元のバス事業者（加賀温泉バス）とタクシー事業者には事前に相談をしたため事業者の理解は得やすく、加賀温泉バスが中部運輸局石川陸運支局（現北陸信越運輸局石川運輸支局）と相談窓口となって、本事業を進めた。

< 推進体制 >

山中温泉観光協会がバス会社に運行を委託

町内のほぼ同じルートを加賀温泉バスが路線バスを運行しているため、この「いい花お散歩号」を住民も乗車できる路線バスとして運行することはできない。そのため、山中温泉観光協会が、加賀温泉バスに運行を委託して毎日運行している。

旅館組合とボランティアによるバスガイド

バスには必ずバスガイドが乗り、山中温泉の観光や見所を説明している。このバスガイドは、山中温泉の旅館主や女将さん、町でギャラリーを営む店主のほか、ボランティア（2002年6月時点で10人）が登録されている。山中温泉観光協会がガイドのスケジュールを組んで、法被（はっぴ）を着たガイドが1日2交代でバスに乗車している。なお、観光客との対話によって、観光客の声を生で感じるために、町長も日曜などには自らガイドとしてバスに乗り込んでいる。

< 事業費用概算 >

巡回バスに関する事業費は、毎月のバス事業者への委託料73.5万円のほか、パンフレットの作成費等で30～40万円ほどを要している。

3) 観光施策の概要

観光まちづくりの推進

「湯の花（温泉）、木の花（漆器）、土の花（九谷焼）、食の花」をテーマとして『いい花みつけた』という地域振興活性化事業としてまちづくりを進めている。

* 観光客向けの公共施設の整備

1990（平成2）年から92年にかけて、ゆけむり健康村「ゆーゆー館」、あやとはし、菊の湯等の公共施設の整備を進めたことで、日帰り客が増加している。

整備が進む山中町の中心商店街

* 南町の整備

山中町の南町をセットバックさせて、商店街を再生する取り組みを推進しており、土産店のほか、伝統工芸である「山中漆器」や「山中節」の体験ギャラリーなど、観光まちづくりを一体的に推進することで、交通施策とまちづくりを一体的に進めている。



温泉の町らしく、町のシンボルとして共同浴場「菊の湯（男性用）」を整備した。また、2002年11月には、伝統文化の薫る温泉街回遊の拠点として「新女性共同浴場」と、内装を山中塗の蒔絵装飾で仕上げた伝統芸能が堪能できる「山中座」をオープンする。

共同浴場「菊の湯」



* 散策ルートの設定

山中町は、温泉、漆器、九谷焼以外も「鶴仙溪」という自然資源を持っており、「鶴仙溪遊歩道」を整備したほか、「こおろぎ橋」と「菊の湯」を結ぶルートと「南町」と「あやとりはし」を結ぶルートを設定した。土日には若いカップルや夫婦連れの姿が増えている。

< 施策の経緯 >

1991（平成3）年から中小商業活性化調査事業として、商店活性化ビジョンを策定し、その中で「山中町の商店街が観光拠点になるまちづくり～買物と散策と工芸文化を楽しむ町並みづくり～」を目指すこととした。

翌92年には伝統芸能「山中節」を地域活性化の要素として再生させることを意図して写真・図画展や山中節民謡フォーラムの開催、山中節ビデオ・小冊子を作成した（事業予算6,635千円、うち5,000千円が県補助金）

その後、ガイドマップの作成や空き店舗・空き家を借用して温泉の歴史・漆器に関する資料・作品・商品を表示する4つのギャラリーを開設した。

97（平成9）年から『いい花見つけた』事業を展開し、現在に至っている（2001年度予算は10,500千円、うち国と町の補助金はそれぞれ5,000千円）。

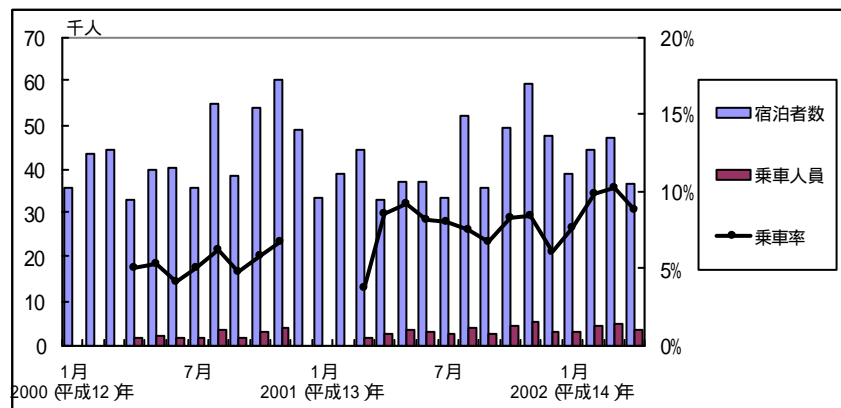
4) 交通と観光の相関性

巡回バス利用者は、順調に増加

巡回バス事業は本年度

で3年目を迎える。当初目標としていた宿泊客の約6%を上回り、最近では10%弱の利用客があり、毎年増加傾向にある。町の中心地にも観光客が戻ってきており、徐々に活気を取り戻している。

やまなかい花お散歩号の乗車人員と宿泊者に対する乗車率の推移



出所) 山中温泉観光協会資料より作成

駐車場整備の抑制

観光客の個人・小グループ化により、山中温泉を来訪する観光客も団体バスの利用は減少し、マイカー利用が増加している。そのため、街なかの観光資源を観て回ってもらうためには、それぞれの見所に駐車場を整備しなくてはならない。しかし、巡回バスの運行によって、観光客は宿泊した旅館の駐車場にマイカーを駐車したまま、観光地を巡ることができるようになったため、規模の大きな駐車場の整備は少なくて済むようになった。観光客が増加することによって、駐車場を整備しなくてはならないという従来の発想ではなく、公共交通機関を活用する等の工夫によって、新たな観光まちづくりを進めることができる証明となった。

5) 今後の方向性と課題

「やまなかい花お散歩号」は順調に利用者を伸ばし、観光客からも好評であるため、今後も継続していきたいと考えている。しかし、現在は山中温泉観光協会に対して、石川県と山中町から「温泉地まちづくり推進事業補助金」が拠出されているが、今後はこの補助金を当てにしてばかりではいけない。加賀温泉バスへの委託料も現在は安価で実施してもらっているため、運行資金面での工夫が必要である。

「いい花お散歩号」に乗って楽しんでもらえる観光スポットを整備するとともに、『いい花みつけた』事業に参加する店舗の増加に努める必要がある。

福井県側から山中町への新たなアクセスとして「新大内トンネル(仮称)」を整備中(2003年に開通予定)である。このトンネルの開通によって、山中温泉バイパスを經由してそのほかの加賀温泉郷(山代温泉等)へのアクセス性が向上するため、いかに山中町市街地(山中温泉)を素通りせずに、訪問してもらえるかが今後の大きな課題である。そのためには、町の魅力の向上に努めるとともに、「新大内トンネル(仮称)」に山中温泉の名前を付けてもらえるように、要望している。

大阪方面から金沢方面への特急(直通)列車は、これまで特急『雷鳥』が運行されてきた。新型車両『サンダーバード』の運行により、大阪方面から能登半島の玄関口である和倉温泉(七尾市)への直通列車が増便された。しかし、加賀温泉駅に停車する特急列車も増便されたことにはなるが、大阪方面からは停車駅も多く、時間短縮効果はさほど大きくないうえに、和倉温泉までの列車増によって、むしろ観光地間で競争が激化している。

担当	石川県江沼郡山中町 山中町産業振興課 石川県山中温泉観光協会・山中温泉旅館協同組合	連絡先	0761-78-4134(電話) 0761-78-0330(電話)
----	--	-----	--------------------------------------